



心月
携懶
栞花
午株

^ 5
2789
1



月瀬必携

利5
2989
1/2

利5
2789
巻1-2世

月瀬
必携
梅花千株



月瀬のふあはくはらるる
きりふふふふふふふふふふ
たふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふ

あゝ千條の如くしてうらやま
なまやまのこころ

下尾 五

五
十

あゝの梅屋敷をききしふあれとては
花舞とらぬそとなく梅の裏の
まきとらぬはとては彼屋の中を
つとれはあやうしむとらぬは
あゝ深くはあゝあゝあゝあゝ
あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ
あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ
あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ

あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ
あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ

自桃香野到月瀬村途中真景



是月山路
月瀬村登



名張川未流
末水津落

此野
出



重富北川のまふれわうめれえれ
 梅くにうち梅うせうり ありこころ
 うち梅ふこねは代わつこせ歌
 笑あちわひしうねもころめを
 梅うやうとてふく言し相
 けうし梅梅そてうりう印
 甲ころれうもてまやし妻あま
 守うらわさくやうさる梅のそしふ
 妻もてめ梅うは川わうめれを
 りうそふ梅うさる梅や妻梅も形

之美 階在 庭是 産仙 魚雪 菜は 下峰 春松 牙笑

ほまらうらうのまふれわ梅うそれ
 梅もこのいふしうわめれえれ
 しうの白うりひけを妻の身
 手梅う島てうやままろり
 梅花を通うけう梅もしん
 界り北川一さうやうさるのま
 ちうくし梅の森り梅林
 うち梅ふこねは代わつこせ歌
 笑あちわひしうねもころめを
 梅うやうとてふく言し相
 けうし梅梅そてうりう印
 甲ころれうもてまやし妻あま
 守うらわさくやうさる梅のそしふ
 妻もてめ梅うは川わうめれを
 りうそふ梅うさる梅や妻梅も形

杜鳴 春高 左市 蕨及 夜に 乙妻 湖且 登病 波高 橋水

くらくと所のありや梅乃 壽
 吹の刺りしころとちりし子まの花 如晴
 土竹のうけのきありや梅 句くふ 芸節
 めくくくくくくくくくくくくくくく 芥山
 至一歌 梅園志とてさしけり 吾山
 梅あま ふうふふふふふふふふふ 尺外
 ひとくくくくくくくくくくくくくく 音吟
 めくくくくくくくくくくくくくくく 桑
 音やちととととととととととととと 中
 あまやととととととととととととと 丸

月のあふありきさかき 砂山
 春のあふありきさかき 雲
 梅さくらやちとととととととととと 色
 くらくとととととととととととととと 水
 軽くくくくくくくくくくくくくくく 木
 春のあふありきさかき 席
 山さくらやちとととととととととと 雅
 梅さくらやちとととととととととと 年
 くらくとととととととととととととと 望
 梅さくらやちとととととととととと 構文

とこころも 冬止りて 梅の月 廿五
 雪の梅 静なる 紙の柳 廿七
 梅のけしきも 冬止りて 梅の山 廿八
 梅のよき 冬止りて 梅の山 廿九
 梅のよき 冬止りて 梅の山 三十
 梅のよき 冬止りて 梅の山 三十一
 梅のよき 冬止りて 梅の山 三十二
 梅のよき 冬止りて 梅の山 三十三
 梅のよき 冬止りて 梅の山 三十四
 梅のよき 冬止りて 梅の山 三十五
 梅のよき 冬止りて 梅の山 三十六
 梅のよき 冬止りて 梅の山 三十七
 梅のよき 冬止りて 梅の山 三十八
 梅のよき 冬止りて 梅の山 三十九
 梅のよき 冬止りて 梅の山 四十
 梅のよき 冬止りて 梅の山 四十一
 梅のよき 冬止りて 梅の山 四十二
 梅のよき 冬止りて 梅の山 四十三
 梅のよき 冬止りて 梅の山 四十四
 梅のよき 冬止りて 梅の山 四十五
 梅のよき 冬止りて 梅の山 四十六
 梅のよき 冬止りて 梅の山 四十七
 梅のよき 冬止りて 梅の山 四十八
 梅のよき 冬止りて 梅の山 四十九
 梅のよき 冬止りて 梅の山 五十

梅のよき 冬止りて 梅の山 五十一
 梅のよき 冬止りて 梅の山 五十二
 梅のよき 冬止りて 梅の山 五十三
 梅のよき 冬止りて 梅の山 五十四
 梅のよき 冬止りて 梅の山 五十五
 梅のよき 冬止りて 梅の山 五十六
 梅のよき 冬止りて 梅の山 五十七
 梅のよき 冬止りて 梅の山 五十八
 梅のよき 冬止りて 梅の山 五十九
 梅のよき 冬止りて 梅の山 六十
 梅のよき 冬止りて 梅の山 六十一
 梅のよき 冬止りて 梅の山 六十二
 梅のよき 冬止りて 梅の山 六十三
 梅のよき 冬止りて 梅の山 六十四
 梅のよき 冬止りて 梅の山 六十五
 梅のよき 冬止りて 梅の山 六十六
 梅のよき 冬止りて 梅の山 六十七
 梅のよき 冬止りて 梅の山 六十八
 梅のよき 冬止りて 梅の山 六十九
 梅のよき 冬止りて 梅の山 七十
 梅のよき 冬止りて 梅の山 七十一
 梅のよき 冬止りて 梅の山 七十二
 梅のよき 冬止りて 梅の山 七十三
 梅のよき 冬止りて 梅の山 七十四
 梅のよき 冬止りて 梅の山 七十五
 梅のよき 冬止りて 梅の山 七十六
 梅のよき 冬止りて 梅の山 七十七
 梅のよき 冬止りて 梅の山 七十八
 梅のよき 冬止りて 梅の山 七十九
 梅のよき 冬止りて 梅の山 八十
 梅のよき 冬止りて 梅の山 八十一
 梅のよき 冬止りて 梅の山 八十二
 梅のよき 冬止りて 梅の山 八十三
 梅のよき 冬止りて 梅の山 八十四
 梅のよき 冬止りて 梅の山 八十五
 梅のよき 冬止りて 梅の山 八十六
 梅のよき 冬止りて 梅の山 八十七
 梅のよき 冬止りて 梅の山 八十八
 梅のよき 冬止りて 梅の山 八十九
 梅のよき 冬止りて 梅の山 九十

奏とるるきり 鐘やうきのみ
 うたふりや 梅一さんくう 人ん
 玉ふれぬさかづや 多免のそら
 梅のそらさうそ ずんや 雲籠のそら
 月とるる、あまきりて 梅わさ 菜
 はらろよ 菜をうる 菜や 梅のそら
 ちのてとぬゆくさや 月とうき
 とし 竹もさの ぬりり 市の梅
 わあさ 幹の ちんやう 免のそら
 こら梅の 子不さう ちんかうれ

陸城 昭乃 竹乃 梅乃 心乃 交乃 叙乃 二乃 陸城

高者の 竹さう ちんや 梅りか
 梅うさ 竹さう や 里れ ぬりり
 うめさくや 家の 梅さき 雲籠
 ちんか 梅、ちんか 雲籠
 高者 枝ふさく 梅のそら
 梅一本 ぶらひて あり 雲籠
 井戸さう 梅さく 方を 梅さく
 雲さう ちんか ちんか
 梅さく ちんか 月を ちんか
 伊ち ちんか 月と ちんか

岩乃 古乃 山乃 其乃 双乃 孤乃 如乃

昔のまゝ更り梅の林うま
 さくらや梅の家の子の多き
 ねむらちよき枝うや梅うま
 花てこくちりもあまの花
 驟もよはな後あねさうめれを
 梅の白けうもあまの梅
 春もや月うせうけこ一ぬ
 月うまふうまうわらぬ朝の梅
 灰や空の入口せきし梅うま
 雪うまふまふの料理や梅うま

月人 古柳 石雙 鑿水 辻 眞水
 公 月 人 古 柳 石 雙 鑿 水 辻 眞 水
 公 月 人 古 柳 石 雙 鑿 水 辻 眞 水

是れいと梅をまゝし哀の梅
 冬梅はうまゆさうや池の龜
 ニ三文梅 梅をある 路梅 うま
 梅うまをさうめいさうりうま
 條川の氷うまうり梅のうま
 梅、出てまめしうや梅 うま
 扇うまをさうめいさうりうま
 花うまはうまふさうり梅 花
 うまうまふさうめいさうりうま
 ちやわたりうまふさうり梅

破花 梅 籠 扇 梅 扇 柳 後 扇 花 月 懸 市 斜

梅さくらやむつし〜さくら家二軒 弁香
 霞とわりのつうけふ〜おののこ 魚目
 縁月やもとく壺もたふさる梅 五白
 月の色ささるや梅〜灯のともる 不那
 朝〜云の指さく〜や母と〜光 如禮
 出あまや梅〜まのさい。 木 出年
 の里は梅もりたよくあ〜り〜ま 丈官
 秋暮〜ち〜ん〜の〜あ乃花 梅嬰
 る〜り〜て〜あ〜ら梅見と 可松
 大京や梅は花〜る〜又〜ま〜る 里石

さ〜りの〜さ〜ら〜ら〜梅見 山 望煙
 梅さ〜おあ〜く〜と〜い〜し〜け 煮進
 家最を〜り〜お見せ〜梅のさ 五白
 様子〜咲〜り〜く〜聖妻よ 四瑞
 人のま〜る〜く〜咲〜梅のさ 白菴
 さい梅と〜い〜梅さ〜ら〜ら〜 香字
 晴〜り〜と〜あ〜ら〜ら〜梅の梅 香吟
 ち〜ら〜本を〜さ〜ら〜わ〜梅乃を 芳月
 ち〜ら〜梅の梅さ〜ら〜ら〜梅 松人
 家下〜梅は〜咲〜ら〜ら〜母 教 可菴

梅よりもくき 梅のうをりうま
 白の中をりく 梅乃意にたり
 られはまじりの小をり 梅のり
 梅をてくれ際のはら 梅の部
 しく梅は月をるう 梅の内
 あらめて 梅をまやち月おさし
 梅おくのあらくあり 小をり
 うめれりともあやましく 梅の重
 多うなるや 梅のるるぬ 梅のさし
 酔いさすや 梅のるるぬ 梅のさし
 山 源 千 花 高 在 此 梅 三 古

梅よりもくき 梅のうをりうま
 白の中をりく 梅乃意にたり
 られはまじりの小をり 梅のり
 梅をてくれ際のはら 梅の部
 しく梅は月をるう 梅の内
 あらめて 梅をまやち月おさし
 梅おくのあらくあり 小をり
 うめれりともあやましく 梅の重
 多うなるや 梅のるるぬ 梅のさし
 酔いさすや 梅のるるぬ 梅のさし
 山 源 千 花 高 在 此 梅 三 古

竹ノ藪を突ぬくうめ此白ひし
 ひらりたふふとみすねぬ梅の玉
 かく先を去るぬるまねわうめ
 折るてりともさる乃 折梅之柳
 春園を点 子やう 免乃くおく
 春ハこふこふぬ 梅乃 各さうか
 空まゆり 梅をさこそ喜ひしり
 弦をきくやうな枝あり 梅乃を
 折あねて木さうの葉まゆり梅
 笑とけし月子をさうり 梅のさう柳
 花 之

折るかり 在寸 少あゆわ 梅の玉
 花とふ 落る乃 各さうか 梅の玉
 月子をさうりや 梅の 玉
 梅とや人の こころをさうり 梅の玉
 たふたふ 被さうり 梅の玉
 梅折るう 春の葉所 玉
 うめとや りわさうり 梅の玉
 さあゆわ 梅の玉
 夕 暮を折る 梅の玉
 花とあねと 折あねの 梅乃花
 花 之

梅をよめるも 園のつらみ 枝の光 也 瓢
 日のくせを 袴をあり くれれ くれ 我ら川
 月あふ海と 梅の白ひ くれ 雪梅
 折ちこく 梅をえき 雪梅 木又
 着ふくせを 梅をく 梅の光 石友
 春ハ 春の 梅を 梅をく 木松
 梅くれくいと 節や 念ハ 乃 木 芽
 梅は 木 人の 梅の 梅の 梅 度 後
 大 春ふ たる 梅見の 梅の 梅 松 牛
 さ 梅の 梅の 梅の 梅の 梅 才 松

梅をよめるも 園のつらみ 枝の光 也 瓢
 日のくせを 袴をあり くれれ くれ 我ら川
 月あふ海と 梅の白ひ くれ 雪梅
 折ちこく 梅をえき 雪梅 木又
 着ふくせを 梅をく 梅の光 石友
 春ハ 春の 梅を 梅をく 木松
 梅くれくいと 節や 念ハ 乃 木 芽
 梅は 木 人の 梅の 梅の 梅 度 後
 大 春ふ たる 梅見の 梅の 梅 松 牛
 さ 梅の 梅の 梅の 梅の 梅 才 松

善哉 ありてはなるぬ 梅のこゝ 色 隈
 けなしてをけしきくあり 梅のこゝ 未 三
 梅らるや 少齋 柳 あり池の 波 一 魚
 落しうらまや 聖末の梅のこゝ 源 柳
 しとふなると ちよす 日と 梅 虎 竹
 左のりんのこゝと 梅乃 白いし 山 無 竹
 空をけ ありのこゝや 梅白 ふ 理 玉
 梅ありとえ 竹のこゝし 意の梅 不 流 玉
 ひともく 井天をいふと 梅のこゝ 九 流 玉
 江のぬへ 日うれて 梅のこゝ 糸 一 蕭 卜

魚ありとえ 竹のこゝし 梅乃 白いし 色 隈
 ちのけをけしきくあり 梅のこゝ 未 三
 梅ありとえ 竹のこゝし 意の梅 不 流 玉
 糸のぬへ 日うれて 梅のこゝ 糸 一 蕭 卜
 口はぬふ ありのこゝし 梅乃 白いし 山 無 竹
 色とふなると ちよす 日と 梅 虎 竹
 枝ぬく 梅のこゝし 梅乃 白いし 山 無 竹
 山ありとえ 竹のこゝし 梅乃 白いし 山 無 竹
 出さるら 梅の目おと 梅乃 白いし 山 無 竹
 出さるら 梅の目おと 梅乃 白いし 山 無 竹

見れらるる眼よ忍ゆるなり梅柳 葉霜
 うら言く 花もつとて 梅のそとふ 雨形
 誓のちきる 子れもさし一梅を 夕
 梅をれい 重れい 向く山をぬ 花
 留とれある 亂らやう 免乃それ 様
 兄と息い 月を抱く 山の梅 自
 抱手そり 柳ののささく 雲のそふ 露
 ちとち 花もい 涙もい 梅のそ那 都
 二うき 梅よ 忍ゆる 柳あうけ ろ
 梅あし 月の影さる あと乃わ 三 笠
 燈

梅よとよ ありハ 家あり 空そと 梅
 うら言く 花もつとて 梅のそとふ 雨形
 誓のちきる 子れもさし一梅を 夕
 梅をれい 重れい 向く山をぬ 花
 留とれある 亂らやう 免乃それ 様
 兄と息い 月を抱く 山の梅 自
 抱手そり 柳ののささく 雲のそふ 露
 ちとち 花もい 涙もい 梅のそ那 都
 二うき 梅よ 忍ゆる 柳あうけ ろ
 梅あし 月の影さる あと乃わ 三 笠
 燈

礼を奉る人よ白き梅乃を那
 うらうらとし花梅多しく先めとし
 只乃白となりたる梅のこほり
 古家やそれより古きくめ乃を那
 亦れとよのそよよと花梅乃を那
 5月や多しなりこの梅は
 梅乃を那月相ふかりの梅乃を那
 暎そよりり花梅乃を那
 うらくや梅乃を那と花梅乃を那
 花梅乃を那梅乃を那梅乃を那
 月夜

あまふ乃月乃花梅乃を那
 梅乃を那と花梅乃を那梅乃を那
 うらうらとし花梅多しく先めとし
 只乃白となりたる梅のこほり
 古家やそれより古きくめ乃を那
 亦れとよのそよよと花梅乃を那
 5月や多しなりこの梅は
 梅乃を那月相ふかりの梅乃を那
 暎そよりり花梅乃を那
 うらくや梅乃を那と花梅乃を那
 花梅乃を那梅乃を那梅乃を那
 月夜

花の梅 遠乃 馬くは、平刺 在業
 一々、くや ありかた子 たる 海舟 所 結海
 細味子 たり、なるや なる 乃を 邪 柳 丑
 洋 種を 買て 梅の あり、い こと 海
 梅乃 なる、なる、なる、なる 乃を 在
 ねん 乃なる、たり、ぬ、免乃 月 既 俤
 一め、くや まく、くまの、よれ、ぬ、く、の、縁 三十九
 を、を、ま、く、く、く、く、く、く、梅の、く、 岸 際
 梅、く、く、く、の、出、た、ま、く、く、川、手、各 四 坡
 巻、砂、り、新、子、に、梅、乃、白、い、く、手 菊 露

石の梅や 甲ふ 梅く、く、く、月と梅 香 民
 華 国の、なる、く、く、く、梅乃 文 人
 下、く、く、く、大、派、房、を、あ、そ、く、免、の、さ、く、 竹 烟
 ち、い、梅、も、あ、る、く、く、く、く、梅乃 一 郎
 ま、く、く、く、く、く、く、く、く、く、梅乃 一 室
 玄、海、の、き、く、く、く、く、梅乃 二 志
 左、え、く、く、く、く、く、く、く、梅の、本、戸 亦 確
 足、を、あ、わ、て、る、く、く、く、く、梅 木 母
 け、を、あ、わ、め、す、く、く、く、く、梅乃 麦 吟
 梅、を、あ、わ、め、す、く、く、く、く、梅乃 豊 守

附錄 人名居

山城 飄齋 梅通 廣池 雅僕 梅巖 柳之芳英
 素尺 露竹 烏舟 其一 排齋 外悉 寄泉 了女
 柳後 烏岳 月樵 市耕 竹香 紅白 柏翠 有節
 松人 圓外 杜葵 兩翠 點郎 如水 若海 文海
 一峰 始風 百可 詩魁 汰節 禾明 奪彥 祭魚
 碩水 山興 九起 漁藻 柳意 孤柳 赤甫 雨新
 支月 道祐 春美 喜山 竹舍 了女 勝錦 桃五
 雪簫 謝風 梅甘
 大和 席班 司水 可窠 里石 竹人 花嘯 井鑿
 可樵 文鳳 洗我 可成

和泉 此松 麥雨 此方 兔白
 河內 古鏡 左榮 霞亭
 棋津 松隣 仙夢 也行 知風 拍年 水明 笠洲
 五韻 杜鴻 鶯宿 湖水 糠人 鶯室 芦雪 眉年
 石叟 古槐 月人 公眠 桃翠 醒花 梅蒼 桃李
 曲阜 白雉 岳明 素壁 不角 舟左 鼎左 寸松
 蕭卜 似蘭 梅雨 季競 拳一 小青女 直堂 古樵
 瓢六 貞風 花亭 林曹 芝雀 可大
 伊賀 養瓜
 伊勢 竹外 方汀 都改 雄五 鈴三 好素 充如 檀
 千丈 尔豐 霞汀 柳塢 春莊
 尾張 而后 李曠 市雪 靜喜 列根 春松 飲尚

武藏	相摸	甲斐	駿河	遠江	完伍	三河	夢仙	梅裡	櫓水
逸洲	松洞	竹良	連山	鳥谷	壺仙	令雅	錦水	甫岳	靜嘉
推陰	棋堂	春湖	麗々	燕及	魚雪	塞馬	月底	藍洲	旭嶂
為山	布丈			夜江	蘭野	洗竹		一清	二楓
見外	由岐			乙堂	雁峰	蒼節		二鳴	鶯道
鳥吟	龜亭			湖且	斧山	占風		荷郊	大年
龜亭	由誓			望露	蓬宇	其菱		醉雨	李德
				杜水	故丈	陸舟		松良	董湖

塵外	近江	常陸	下總	上總	安房	音好	泰山	弄化	蘆月	露丸
藏六	金絲	樊圃	交水	霞雪	季民	松頂	箒栽	北松	可簫	故厓
帆道	乙也		喜年	蒼湖	吉雄	美交	得蕪	未足	五渡	花明
可陽	蕙逸		李月	未成	木母	水壺	抱義	範成	五休	萬古
麥吟	月峯		汎翠			波鷗	溪齋	梅笠	花海	雄魯
松月	鳥都		月杵			泰我	卓郎	不染	乃々	心魯
	池月					物外	祖卿	巴雪	以肅	夫雪
	葛雨					五雀	如山	糸一	祐之	四端

出羽	松前	文人	太素	處溪	陸奧	下野	上野	時習	月外	信濃	美濃
敷山	芸郎	一宜	如雲	詠柳	多女	友松	結言	友松	嬌雨	蘆十	藍庭
二葉	砂山		分字	里人	壯山	文窓	支兮	文窓	旭山	圭布	布泉
吟風	淇山		遜阿	擣影	愛山		蛙城		連如	龍湖	露牛
御風	素元		江三	風志	清民		分尾		如雪	香隈	里蕉
素山	馬邨		永月	希石	白水		竹烟		如猿	迎祥	
	旭		左丈	希及	五雲		一朗		雄枝	雲霞	
			英泉	青湖	竹遊				蕉堂	其秋	

安藝	備後	備前	播磨	佐渡	能登	加賀	和夕	我後	我中	我前	若杖
鳳卵	謀臣	涼呼	古谷	收之	生芽	太甫	春洲	偉文	都盤	布珀	岩月
甘古	露菽	眠居	北梅		嚙一	晴江	常晴	孤舟	逸江	帛風	
池雄	雨川		蒼山		娛遊	林波	文貞	茶山	田山		
柳塘	闇鷺		芝園		笑圃	悠平	古棠	乙良	可九		
	卜隣		而得			大夢		友耕			
			笠雅					吏川			
			西坡					大經			

周防	字仙	桑眉	長門	丹波	鴉籟	丹後	但馬	伯著	出雲	石見	紀伊
笠水	指月	無勿	有秋	士常	而風	梅城	効我	春光	鸞川	鶯川	默契
慮子	其羊	半禪	監水	獨笑	露白	秋孝	午白		挑牛	三艸	茶佛
素兄	閑雲	閑鴻	馬足	芳翠		南強			和	鸞	閑那
道味	子蓓		其通	雨岡		夜舒			山	喜	鳥旭
長弘	馬勃		雪槁			屢空			居	節	山居
自笑	佛牙		肥玉			樂山			喜	露	喜節
淇園	三芝		菽園			春水			露	舟	露舟

悉丘	阿波	石堂	伊豫	讚岐	筑前	筑後	曹前	曹後	肥前	蘭室
洋々	桑葉	茶雷	雅集	拍石	蓼臺	秋水	木父	夫木	其葉	一化
塘雨	松丈	城山	斗仙	霞山	飛木			石友	悠悠	史敬
走鬼	騏驎	蟻城	野夕					敬夫	几一	菴露
鷗池	月古		葵笠					翫鵲	嵐岱	
筍丁	左一		鸞居					羊石	拈井	
	擣風		花我						梅宇	
	万像		波同						右稻	

肥後 千干山天雨月龍使

日向 双鳥 西洞 桃宴 白鷺 竹仙 史川 常波

大隅 倉川 正堂 由竹 松廬

飛球金加芥木

薩摩 由竹 松廬

右 五百家

五十九箇國

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]



